

2020年1月9日(木)

【証】

「聖霊は人格を備えたお方です。なぜなら、聖霊は私たちが神の子であることを私たちの霊とともにあかししてくださるからです。このあかしがなされる時、そのことについての証拠が伴います。つまり、私たちは信じ、私たちが神の子であることを確信するようになります。」(エレン・G・ホワイト『伝道』下巻 393頁)

聖霊はわたしたちの歩みにおいて三つの段階で働きます。(ヨハネ 16:8~11) 一つ目は、わたしたちに罪を自覚させ、わたしたちをキリストに導くこと。二つ目は、わたしたちの目を開いてキリストの義に導くことです。キリストの義にはわたしたちを救うのに十分な力があるからです。さらに三つ目は、わたしたちの人生からサタンと罪とを追い出し、清めてくださることです。(ヨハネ 16:11)

わたしの両親は、五番目の息子であるわたしを含めて六人の子供を、神を信じ聖書を受け入れるように育ててくれました。わたしたちは得るべき天国と、避けるべき滅びがあることを両親から学びました。しかしわたしたちは、神との関係を保ち続けることも、主を信頼することもしませんでした。母の兄ハロルド(わたしの伯父)はアドベンチストの女性と結婚しましたが、ある日新妻に向かって、第七日安息日を守る必要などないことを聖書から証明してみせる! と宣言しました。ところが聖書を学び続けるうちに、聖書に記されている真の安息日は土曜日であることを知ったのです。すぐにハロルドはバプテスマを受けてアドベンチストになりました。

次にハロルドは、わたしたち家族に彼の信仰について話してきました! わたしは聖書の安息日の教えを論破しようとしたのですが、できませんでした。安息日を守ることは、わたしの人生の計画を妨害することであり、わたしは安息日を守りたくなかったのです。しかし次第に聖霊の導きによって、わたし自身が滅びに至る罪人であるとの自覚が深まっていきました。神様に従っていないことは自分で良くわかっていましたし、このままでは救われないことも知っていました。ちょうどその頃、ハロルドから一通の手紙を受け取ったのです。

手紙の中で彼は、聖書に示された数々の証拠を引用しながら、天国がどのような場所であるかを説明していました。その天国の記述を読みながら、わたしは自分の生涯を神様にお捧げしたいという強い願望を覚えるようになったのです。すると「今あなたの生涯を捧げないなら、今後決して捧げることはないだろう」という神様の御声を、隣に座っている人が話すようにはっきりと心の中で聞いたのです。わたしは恐れを抱きました。自分は天国の祝福をこの地上の幸福と取引きしていたからです。わたしは椅子から立ち上がると、部屋に戻ってドアを閉めました。そしてベッドの傍らにひざまずき、はじめて心から神様に祈りました。何と祈るべきか、言葉選びと格闘しながら、結果として次のように祈ったのです。「イエス様、わたしはあなたが望んでいる存在になりたいです。あなたが望んでいることをしたいです。そしてあなたが行くように望んでおられるところに行きたいです。」

祈り終わるや否や、わたしは全身に変化が及んだのを感じました。かつての怒りや心の痛みから解放され、愛、平和、そして神にある喜びがわたしの心を満たしました。わたしは神様が自分の祈りを聞き入れてくださったことを知りました。そしてわたしがなすべきことを悟ったのです。わたしは立ち上がって母のところに行き、これからはイエス様のために歩み、安息日を守っていかうと思うと伝えました。母のほほには喜びの涙が流れました。数日間うちに、わたしは自分をこの世に縛りつけていたあらゆる罪を断ち始めました。わたしのこの決断を理解できなかった友人もいましたし、この先どうなるかも明らかではありませんでしたが、わたしの意識は明瞭なままで、わたしの心には喜びが満ちていました。

その後、わたしはアドベンチストの牧師から聖書を学び、わたしの人生に対する神様の御心についての理解を深めることができました。そしてついにバプテスマを受け、セブンスデー・アドベンチスト教会の一員となったのです。これこそ、わたしがなした人生の最善の決断となったのです。

【祈りについての聖句】

パウロはかつてエフェソから来た 12 人に、「信仰に入ったとき、聖霊を受けましたか」(使徒言行録 19:2)と尋ねましたが、彼らは「いいえ、聖霊があるかどうか、聞いたこともありません」と答えました。あなたならこの質問にどう答えますか。

ヨハネ 16:8~11

わたしたちに罪を自覚させ、わたしたちをイエスに導くのは聖霊の働きです。

ローマ 3:10, 23

正しい者はいません。一人もいません。人は皆、罪を犯して神の栄光を受けられなくなっています。

ローマ 6:23

罪が支払う報酬は死です。しかし、神の賜物は、わたしたちの主キリスト・イエスによる永遠の命なのです。

ヨハネ 3:16

神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛されました。独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためです。

エフェソ 2:8, 9

わたしたちは信仰による恵みによって救われます。決してわたしたち自身のよきものによるものではありません。それはわたしたち自身の働きではなく、神の賜物です。

I ヨハネ 5:11~13

もしわたしたちが信仰によってイエスを受け入れるなら、わたしたちは永遠のいのちを持っていることを知ります。

ローマ 8:16

御霊みずからの証しにより、わたしたちは神の息子であり娘であることを知ります。

日々、わたしたちがイエス様に心を向けて祈るたびに、わたしたちは主の赦しと恵みに満たされます。イスラエルの民が日ごとに天からマナを受けたように、わたしたちも日ごとに命のパンであるイエス様との関係を新しくします。(ヨハネ 6:58)わたしたちの生活の中で働く聖霊の臨在により、わたしたちは神様に罪を告白し、キリストの義はわたしたちを謙遜へと導き、そして悪魔の誘惑に立ち向かう力を受けるのです。(ガラテヤ 5:16)

【祈りの提案】

- 親愛なる天の神様、わたしが罪びとであることを知っています。あなたが約束してくださったように、どうかわたしのすべての罪をお赦しください。(Iヨハネ 1:9)神様、わたしがイエス様を救い主として受け入れるなら、永遠の命をお与えくださるとのあなたのお約束に感謝します。今日わたしはイエス様を受け入れます。わたしはイエス様のご再臨を待ち焦がれます。
- 親愛なるイエス様。わたしは悪魔と悪霊の誘惑に目を光らせ、いつも聖霊の臨在の中を歩みたいと望みます。誘惑を見極め、抵抗する力をわたしにお与えください。(ヤコブ 4:7)
- 主よ。わたしの救いに関して、わたしはあなたに信頼しています。救いの喜びに満ちた揺るがぬ確信を持つことによって、わたしの生き方が、失われた魂をイエス様に惹きつけることができますように。
- 親愛なる父よ、地上の教会に属する多くの人は単に宗教を行っているにすぎません。彼らはイエス様の救いの恵みを知りません。どうか、あなたの聖霊を注いでくださり、彼らがそれぞれの罪を自覚し、イエス様のもとに導かれますように。単に儀式を行うことに飽きさせてください。彼ら自身の歩みの中で、神様の真の臨在を請い求めることができますように。
- 主よ、霊的また精神的に囚われの中にいる人々が、罪やその他の誘惑から解放されることができるよう。
- 主よ、困難な場所にあってもあなたのためにお仕えしたいと望んでいる、現代のワルド派のような学生たちをどうか立ち上がらせてください。
- 中東の 20 ヶ国において 746 の民族に対し、喜んで働く勇敢な宣教師を起こしてください。
- 北アジア太平洋支部および南アジア太平洋支部の千人宣教師のことを覚えてお祈りします。若者たちが神様の働きをなすための力を得ることができますように。
- 南アジア太平洋支部の少なくとも 41 の都市に住む 2 億 2 百万人の人々がイエス様を知ることができますようにお祈りします。
- ワンイヤー・イン・ミッション(特別な宣教の1年)及びミッションカレブを通して、危険を冒して主のために働いている若者たちのことを覚えて祈ります。
- わたしたちはまた個人的な祈りのリストに記された7名あるいはそれ以上の方(可能な場合は名前をあげて)を覚えて祈りたいと思います。
- *各教会の祈りの課題を追加してください:

【讃美歌の提案】

「ああうれしわが身も」(『希望の讃美歌』214 番)等、他にも『希望の讃美歌』中の『信頼』、『信仰』、『聖霊なる神』の項目から各教会でふさわしい曲を選曲してください。